



開花期以降 寒さ注意

グリーンピースは別名「実えんどう」とも呼ばれています。原産地はコーカサス、ペルシャなど諸説がありますが、日本へは中国から9～10世紀頃伝わったといわれます。江戸時代にはいくつかの品種が記録されていますが、明治時代に欧米各国から品質の良い品種が導入され、現在の品種へ改良されました。

現在の主な品種は、草丈が低く開花の早い「スーパーグリーン」、さやが大きく寒さに強い「あくねグリーン」、霜が比較的強い地域でも栽培できる「南海緑」などがあります。県が育成した「まめこぞう」は豆くさくなく、甘くて収穫量も多いことから、栽培が広がっている品種です。

グリーンピースはさやをむき、青実を食用とします。タンパク質、糖類、ビタミン類を多く含み、食物繊維も豊富です。豆ご飯や卵とじ、チキンライスなどに利用されます。今回は、秋まき冬・春どり栽培を紹介します。

生育適温は12～18度で、25度以上の高温や、2度以下の低温ではさや着きが悪くなったり、形の悪いさやが増えたりします。また、開花期までは比較的寒さに強いですが、開花期以降に氷点下2度以下の低温にあうと成長点が止まり、その後の収穫が望めなくなることがあります。霜の降らない暖かい地域では冬どり栽培（種まきは9～10月）が可能で、霜が降りる冷涼な地域では春どり栽培（種まきは11～12月）が適します。

連作障害を起こしやすいので、4～5年間マメ類を栽培していない日当たりと排水の良いほ場を選びます。種まきの1週間前までに1平方メートル当たり堆肥2キログラム、苦土石灰100グラム程度を施し、できるだけ深く耕うんします。化学肥料はうねの位置に、うねの長さ1メートル当たり100グラム（窒素、リン酸、カリが15%の場合）施します。うねは幅60センチ、高さ20センチ程度の大きさに作り、黒ポリフィルムでマルチをします。複数のうねを作る場合は通路90～100センチとします。種のまき方は20センチ間隔に穴をあけ、1穴に2～3粒ずつ、3センチの深さにまきます。

つるが伸びたら、ネットを張り、つるを誘引します。つるが伸びるのにあわせてネットの横に水平にヒモを張り、つるが倒れるのを防ぎます。つるがネットの上部に達したら、つるの成長点を摘み取ります。不織布などで覆うと霜の被害を防げます。花が咲き出したら、1カ月に1回程度の間隔で追肥します。植え穴一つ当たり化成肥料3グラム程度を施します。

開花から30～45日程度で、さやにしわが出始めた頃を目安に収穫します。

〔鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室研究専門員〕

